

学校での木製品の使用

- 木製の机とイスを中心として -

旭川市立近文小学校

教諭 松藤 浄治

木材関係者と教育現場のつながり

川の街、歌の街などと言われている旭川は木工の街でもある。街に出て見回してみれば、製材工場があり、家具工場がある。大きなトラックが木材を運んでいるのを見るし、店頭でも地元の木工芸品や家具などが目にとまる。しかし、学校で仕事をしている私にとって、これらのものとの関係は少なかった。

小学校の4年の授業に「木ぎれを使って」「舟を作る」という木を扱った教材がある。この木ぎれというのが難物で、なかなか手に入らない。端材なので売ってもいない。同僚の中には近くの木工関係の工場に行って、材料集めに精を出す者もいた。かまぼこの板のあるところ、割りばしのあるところなど、我々は仲間の間で端材のありそうなところを知らせ合いながら教材を消化していった。

そんな時期に我々の動きに注目し、子供達の創作活動に役立つならばと云って、我々の所属する旭川市教育研究会図工・美術部に、木材の無償提供の話を持って来られた熱心な木材関係者があった。さらに作品を発表する場所や、賞状・賞品なども用意しようとの提案もあった。旭川の伝統を守り、木工の街旭川の将来の展望を考える北海道木材青年経営者協議会（木青協）旭川支部の若さにあふれるメンバーであった。我々はこの提案にいたく感激しその主旨に賛同した。さらに市内の仲間にも利用の輪を広げながら、木工工作の創作活動が積極的に行われるように努力して来た。現在年に一度行われる「木工・工作コンクール」も今年で10年目を迎え、参加校も10数校を数え市内ばかりでなく近郊の学校にも及び、規格に

しばられない自由な木工・工作に取り組むようになって来ている。

さらに明記しなければならないのは、地元にある林産試験場の方々の絶大など協力である。端材のあるところ、木についての資料や教材になりそうな材料の紹介、図工・美術部への講師の派遣、教材に適した樹種の選定、さらに木材の材料見本、木製縁台の提供など、その積極的など協力には頭が下がるばかりである。

木製の机とイス

昭和60年の年が明けた2月に、林産試験場から木製の机・イスについての児童と教員を対象とするアンケートの依頼があった。私は以前から木には興味を持っていたので、早速この昔懐かしい？木の机・イスについてのアンケートをとってみた。その結果、良いところとして、木の持つやさらかさ、暖かさ、落ちつき、色や木目等の美しさがあげられ、児童の多数も木製品が良いとの事であった。さらに児童の中には床もフローリングにしたら良いとの話も出て来た。

その頃、旭川地方木材協会では、木材の需要拡大の一環として、児童用の机やイスの木製化に取り組む計画がスタートしつつあり、このようなアンケートの結果も参考になって、同協会を始め木青協、林産試験場、旭川市工芸指導所、山岡木材(株)、上川教育局、旭川市教育委員会、旭川市PTA連合会などが集まって、さらに検討が重ねられた。その成果として、7月9日林業会館で試作品数種類が展示された。どの作品もよくデザインされ、作品の隅々まで細やかな配慮が感じられた。その後、その中から一つに絞り量産が始まった。

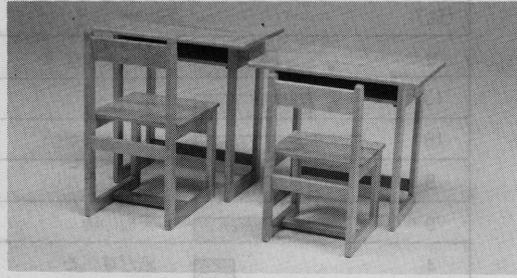
そして、8月21日160組の机といすが旭川地方木材協会から、本校2年児童に贈られた。この木の香りただよふ新品の素晴らしいプレゼントを前にして、児童の喜びようは大変なものであった（子供達の感想文を末尾に掲載した）。我々も木の持つソフトな感じ、美しさ、工夫され洗練されたデザインに目を見張った。

その折も折、8月20日の文部省での記者会見で松永文部大臣は学校施設に木材使用を促進する考えを明らかにし、それに必要な予算措置を講じた述べられた。我々は欣喜雀躍すると同時に、木材協会の“先見の明”に驚かされた。

木製の机といすを使い始めた1ヵ月後に、2年の全児童144名からアンケートをとって、木の机といすの感想を調べた（図1）。また、実際に使用してはいないが、小学校の中では最も判断力のある6年生に求めたアンケートの結果は図2、3のとおりであった。改良した方がよい点として、机については、天板の角度が変えられるようにする、物入れの部分を引き出しにする、というのがあった。また、いすについては、いすの下に物入れを作る、いすの前面に板があってもよい、という意見もあった。

教室の壁にパネルボードを張る

第2の素晴らしいプレゼント、それは木製の机といすの入った2年生の4教室を、それぞれカラ



机といす

タイプ	A	B
使用木材	イタヤカエデ	イタヤカエデ (机天板のみ) エゾマツ・トドマツ (机天板以外)
塗材	ラッカー	ウレタン
寸法	5, 6, 7号	
数	80組	80組
重量 (kg)	机 7.9 (7.1) いす 3.9 (3.5)	机 6.7 (7.1) いす 2.9 (3.5)

() はパイプ製の重量

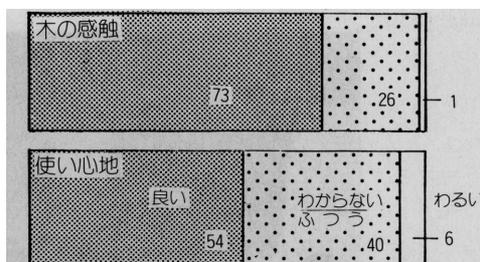


図1 木製机・いすの感想 (2年生)

マツ、カバ、トドマツ、ドイツウヒで内装する事であった。工事は61年1月8日から始まった。

(%)	悪いところ	良いところ	(%)
26	すべりやすい	すわりごちがよい	34
22	すわるころのすきま	色がよい	10
20	せもたれがかたい	かるい(トドマツ)	10
10	重い	せもたれがよい	8
6	小さい	丈夫でよい	6
4	せもたれが小さい	大きさがよい	6
12	その他	安定感がある	4
		広さがよい	4
		角度がよい	4
		その他	14

図2 木製いすの感想 (6年生)

学校での木製品の他用

(%)	悪いところ	よいところ	(%)
9	すべりやすい	すべてよい	6
13	重い	軽い	4
18	傷つきやすい	色がよい	14
9	天板がせまい	形がよい	3
9	天板の角	手ざわりがよい	14
4	紙がすべる	感じがよい	4
19	物入れがせまい	丈夫でよい	4
5	物入れが弱い	天板の広さがよい	17
4	物入れの板がざらざら	字が書きやすい	4
5	物入れのストッパーがじゃま	物が落ちなくてよい	4
5	その他	物入れの大きさがよい	3
図3 木製机の感想(6年生)		物かけが動かない	11
		その他	12



授業の様子

教室の一部分の塗装は市教委のご援助をいただいた。

待ちに待った2年児童と対面したのは始業式を行った1月21日であった。児童の喜び様は前回のプレゼントに加えられて、一層大きなものがあ

た。

木製の机・いすと同様、6年と2年児童に壁の感想をアンケート調査した。

○6年児童の感想(35名)

アンケートの結果は図4,5のとおりであった。

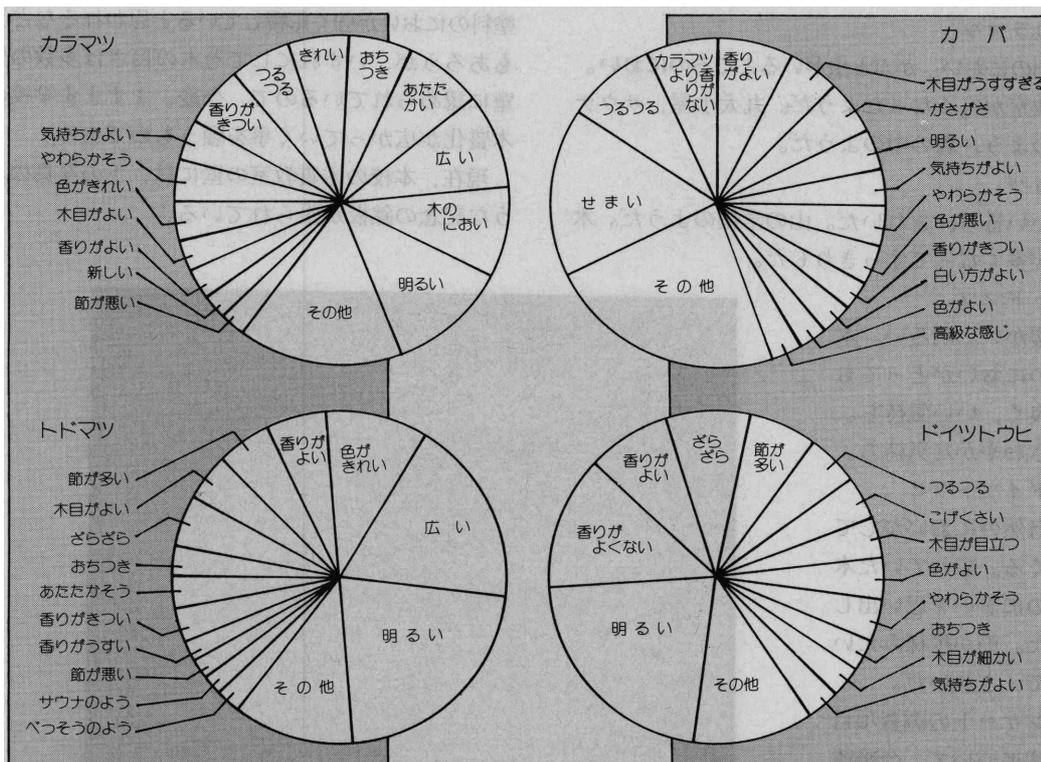


図4 壁材樹種の感想(6年生)

学校での木製品の使用

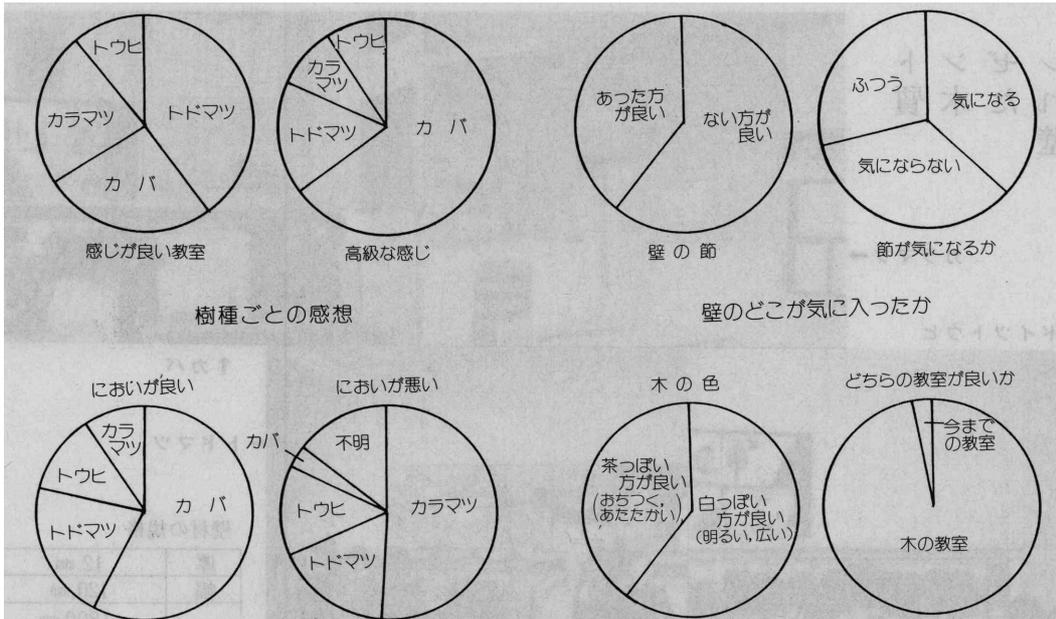


図5 木製壁の感想(6年生)

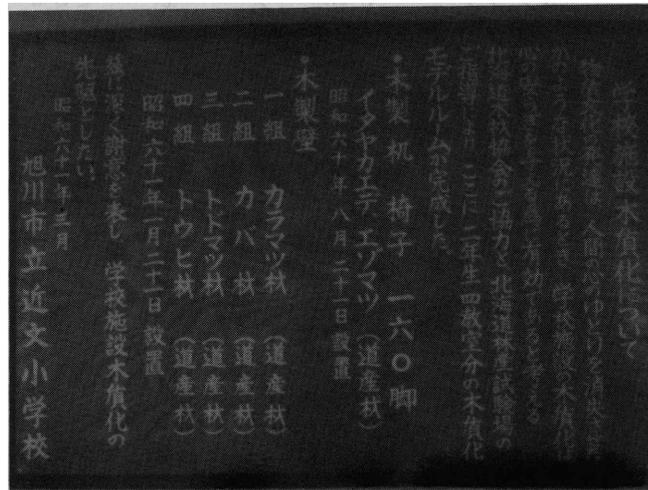
〇2年児童の感想(144名)

- ・カラマツ
山のおおい。かぶと虫がいるところのおおい。教室が広くなったようだ。丸太小屋, サウナのような。森の中のようだ。
- ・カバ
いい香り。きれい。山の学校のような。木が多くなってすっきりした。
- ・トドマツ
暖かい。明るい。木のおおいがとっても良く、いい気持ち。さわやかな気持ち。
- ・ドイツトウヒ
自然のおおいがしてくる。忘れていた木のおおいを思い出した。節が模様みたいで、きれい。

アンケートの調査項目や方法について、今後改良しなければならない点

(においについては、木材のにおいというより、塗料のにおいが強く影響していると思われるなど)もあるうが、いずれにしても木の良さは多数の児童に認められているので、今後、ますます学校の木質化が広がっていく事を願うものである。

現在、本校の木質教室の壁には、下の写真のような記念の銘板が張られている。



銘板

学校教材と木材

教材を広い意味に解釈して、学校で使用される木材をかいつまんであげてみると、理科関係では飼育小屋、教材園の囲いや支柱、杭、花壇の柵、柵、バードテーブル、水田の囲い、木材の標本などであろう。また、体育関係ではプールサイドのベンチ、すの子板、フィールドアスレチックの施設、運動会に使われる物もいろいろある。このほか、学芸会での大道具・小道具、青空教室のベンチやテーブル、教室で使う簡単な本箱など結構利用される物が多いが、一番使用されるのは図工科や模型や工作、木工などのクラブ活動であろう。

図工科では3年に木を使用した「小刀で作る」があり、学年が進むにつれて、木ぎれを使った立体作品がでてくる。1枚の板で箱を作ったり、壁飾りを作ったり、動くおもちゃを作ったりする。

6年では浮き彫りの製作も出てくる。

私は以前から図工科で木材をどの様にして教材に生かすかを考え、また、実践して来たが、児童の発達段階、加工技術、作業時間、時期、作業場、騒音問題など、もろもろの条件があり、これを解決する事がむずかしい現状であった。

このような問題の一つに木材の硬さがあった。加工する工具も少なく、サビついたり欠損があったり劣悪状態の中で、これらの教材がうまくいくのか心配された。もう少し木材が軟らかく加工しやすければ良いのではないかと考えた事が何度もあった。そこで加工しやすい棒材、板材、経木、うす皮、さらに林産試験場において紙まで作っていただいたこともあった。紙については別の目的もあった。さらに、軟らかい木材と言う事で、ポプラやドロノキまで提供いただいた事もある。また、木材会社において教材になりそうな、例えば木の中心が抜けた物や、無数の穴があいたものまでいただいた事もあった。この中には、材質そのものや、供給の見通し、運搬やコストの問題があり、教材には使用できない物もあった。経木を使った授業では一応作品は出来たが、作品の内容、接合や加工法などの点で今一つ物足りないところがあった。また硬い木材でも子供達

はよくがんばり、苦労して作っただけに喜びや成就感も大きい場合もあった。しかし、木が割れたり、釘が曲がったりという事もしばしばあった。

私はときどき木材の硬さを目的に応じて変える事ができないものかと思ったり、パルサ材のような軽くて軟らかい材料が安く入手できないものかと考えた事もある。販売のルートの問題もあろうが、今後地元の木材が安い値段で学校教材として供給できるようになる事を望むものである。

学校教育と木材

教育環境の面から言えば、前に述べた様に木材の持つやわらかさ、美しさ、吸湿性、光や音や温度などに対する優れた特性の利用がある。学校の机・いす、壁に使用された木材の良さはアンケートのとおりであるが、今後さらに良い物にするために、すでに諸賢が考慮済みのものであろうが、木材製品について私の感じたままを率直に羅列的に書いてみる。

- (1) 板の変色の問題。色については子供達は白っぽくて明るい色を好んでいる面があるようだ。
- (2) 板の張り方。縦・横、モザイク様などいろいろあるが、線の持つ心理的な効果も一考の余地はないだろうか。
- (3) 板の色彩調節。新しい校舎の壁の中には色彩調節を考慮している壁、例えば「eye - rest - green (目の休まる緑)」とおぼしき色が使われている。色を調節する事によって人間が快適に活動できるようにと考えられたもので、日本では1951年ごろから始まっている。前記の色について言えば、その効果はある人によると「単調な仕事に没頭できる」「注意散漫にならない」「時間の経過を忘れてしまう」という事である。もし木材の長所にこれなどが取り込まれ、子供達に働きかける事ができれば、よりよい物になるのではないだろうか。
- (4) 床がすべりやすい問題。アンケートによれば、改良してほしいところの中に、すべりにくい様にとの希望がある。すべりの調節は出来ないものだろうか。

- (5) 水拭きをしても影響を受けない工夫。
- (6) 木材の持つ香りの問題。木材から出る物の中には、人体に良い影響を与えるものがある様なので、それらを一步前進させてはもらえないだろうか。
- (7) 子供は遊んだり、物を作ったりする事が大好きなので、学校の中に遊戯調刻やログハウスなどを取り入れたい。

自分達が使うものを、自分の力で作らせてみたい。木製の食器類、机やいす、筆入れ、遊び道具、創作物など。子供の主体性が後退する中で、工作は受身から能動へ、部分から総合へ、適応から創造へと精神活動をかきたてる優れたものを持っている。そう言う面で我々になじみ深い木材を、学校でも生活の中でもふんだんに使わせたいものである。

おわりに

学校教材と生活とのかかわりの面で、子供達に

〔なお、筆者は現在旭川市立末広北小学校で
教鞭^{へん}を執っておられます。(編集委員会)〕

ここに掲載した作文は、たくさん感想文の中から編集委員が選んだものです。

近文小二年 小滝 馨吾

一学つきのしぎようしぎの日、教室に入ると、木のつくえといすがならんでいました。ぼくはかんじた、しげんのおいがした。みんながめずらしそうにのぞいてた。つるつるしてて、本木の木がそばにあるみたいでした。

まえのつくえより、木のつくえのほうがいいと思った。まえのつくえは、なつになるとあつくなるし、冬はつめたい。でも木のつくえは、そんなふうにならないからいいと思う。木のつくえの方がべんきようがやりやすい。

この木のつくえといすを作った人はたいへんだったと思います。みんなも大よろこびしてました。ぼくもうれしいと思った。ほかのくみもよろこんでた。一くみと二くみは、まつの木のつくえ、三くみと四くみはかえでのつくえ。今のつくえは、木のつくえできつがついている人もいました。三年生の前のろうかも木になった。ゆかも木、木のつくえだけじゃなくていろいろなものも木なんだ。

木には、切つたらもよう見たいなものが出てきてうつくしい。何日もたつてもぜんぜんかわらない。木がいっぱいある、「しげんとつたものはやはりしげんだなあ。」

一学つきのしぎようしぎの日
近文小二年 橋場 郁美

教室に入ると、木のつくえといすがならんでいました。

だれもつかつてない。

二年生しかつかつてないつくえといす。

においをかくとしげんのかおりがする。

作りたてのいすとつくえ。

さわつて見ると、とてもやわらかい感じがする。

前の、つくえといすとは、ちがつてとてもいい気もちがする。

前のつくえやいすはかたかった。

でも、今のつくえやいすもやわらかいから、わたしの気もちもやわらかくなつてきた。

この、つくえは、なわとびやたいいくぼうをかけるところが二つも、ついでいる。

この、つくえはだれにもあげたくない。

でも、三年生になつたらおわかれするつくえやいす。

わたしには、木のつくえといすがあつてくれるけど、三年生になつたら木のつくえとおわかれする。

木の、つくえといすがわたしにとつてはとも、とつてもだいじ。

一年生は、いいことばかり。

ろうかも、あたらしく木のろうかになつたいつでも、思っていることは、木のろうかにじゅうたんを広げてねころんびたいくらいです。

三年生になつたら、木のろうかではなくなる。きつと、歩いていたらつめたいだろうなあ。

今のつくえ、これからもきずをつけないうつつかいます。